

## 巻頭言 若手研究者育成プログラム～10年を振り返って～

岡本 泰昌  
広島大学精神神経医科学

2021年をもちまして、2011年からかかわってきました将来計画委員会を退任致しました。将来計画委員会が中心になって運営してきました若手研究者育成プログラムが始まったのは2012年ですので、この機会に若手研究者育成プログラム10年を振り返ってみたいと思います。

そもそも将来計画委員会が、なぜ若手研究者育成プログラムをやっているかという疑問も湧くかと思いません。将来計画委員会では、本学会の未来像だけでなく、生物学的な精神医学研究の発展についても議論を行っています。そのなかで、当時の委員会の議論の中で生物学的精神医学の危機感から、本学会の将来(未来)を考えるうえでもっとも大切なことは、垣根を越えて生物学的な精神医学的研究を志す若手研究者を育てることである。そのために若手育成の仕組みの構築が必須であるとの判断から、将来計画委員会で若手研究者育成プログラムを始めるに至りました。当初から最優秀奨励賞受賞者には学会とは独立して委員会としてそれなりのインセンティブ(賞金)を提供することとしたので、資金集めも大変であったであろうと思いますが、立ち上げ時期にリーダーをお務めいただいた岩田仲生先生、笠井清登先生のご尽力でこの点もクリアできました。また、実際の若手研究者育成プログラムの運営においては、当初は橋本亮太先生、ここ数年は正田貴俊先生が中心になって担当していただき、熱い運営方針を確立していただきました。

若手研究者育成プログラムは、奨励賞の発表や最優秀奨励賞の選考会を兼ねて、大会期間中やその前後に、ほぼ一日をかけて実施してきました。2012年度(第1期)から2021年度(第10期)まで52名の先生が奨励賞を受賞され、ほとんどの先生は、毎年、本学会の大会に参加するだけでなく、本プログラムにも継続的に参加され、毎年の研究の進展を発表いただきました。そこでは、将来計画委員会委員全員+若手研究者育成プログラムタスクフォースメンバーをメンターとして、発表内容だけでなく、研究キャリアについても助言や指導をいただきました。結構、厳しいコメント(愛のムチ)もあるので、受賞者の先生にとっては、毎年の大きなストレスイベントになっていたことと思います。「虎の穴」みたいだという評判も聞いたことがあります。最優秀奨励賞受賞者はこれまで8名の先生が選出されています。2014年度沼田周助先生(徳島大学)、2015年

度池田匡志先生(藤田医科大学)、2016年度正田貴俊先生(大阪大学)、2017年度牧之段学先生(奈良県立医大)、2018年度加藤隆弘先生(九州大学)、2019年度紀本創兵先生(奈良県立医大)、2020年度平野羊嗣先生(九州大学)、2021年度小池進介先生(東京大学)となっています。最優秀奨励賞の受賞者には、その後の大会の若手育成プログラムや交流会の運営に参加するとともに、将来計画委員会の委員になっていただくこととなっています。審査する側もすべての発表を聞くことを原則としていましたので、結構、時間のやりくりが大変でしたが、先生方の研究の進展を知ることのできる楽しい機会でした。

2016年度からは、若手研究者育成プログラム内の限られた時間だけでなく、もっと討論したい、もっと質問したいという要望が出てきたので、奨励賞の受賞者が中心となり、各研究テーマで講義とグループディスカッションを行う交流会を開催することになりました。交流会後には、懇親会も企画され、お酒も交えてより濃密な交流をはかることができるようになりました。2021年度からは、さらなる若手の掘り起こしに向けて、研究歴6年以内の大学院生、若手研究者を対象に若手精神科医生物学的精神医学研究奨励賞および若手生物学的精神医学研究奨励賞を新設しました。

2021年7月には、新しい将来計画委員会が組織され、9名の委員中、池田匡志委員長をはじめ6名の先生方が若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞した先生です。若手研究者育成プログラムも10年たって、将来の生物学的精神医学研究を背負う人材が育ち、彼らが次の人材を育てる立場になってきたと考えることもできます。若手研究者育成プログラムは、若手が中心ではありますがさまざまな立場にある研究者が、大学の垣根やアプローチ手法を超えて参加し、研究目的や内容、実験手法、さらには研究者としての心構えなど幅広いテーマについて、時間をかけて熱い討論を行うプログラムです。ご参加いただく先生には「生物学的精神医学研究の楽しさ」と「さまざまな人とつながることの喜び」を感じていただきたいと考えていました。この10年を振り返って、次の10年の若手研究者育成プログラムの益々の発展を心から祈念しています。これらの活動を通じて「真の精神医療の向上」につながる生物学的精神医学研究が生まれてくることを楽しみにしています。